二十四孝諺註二

餘親。溺孟

山谷

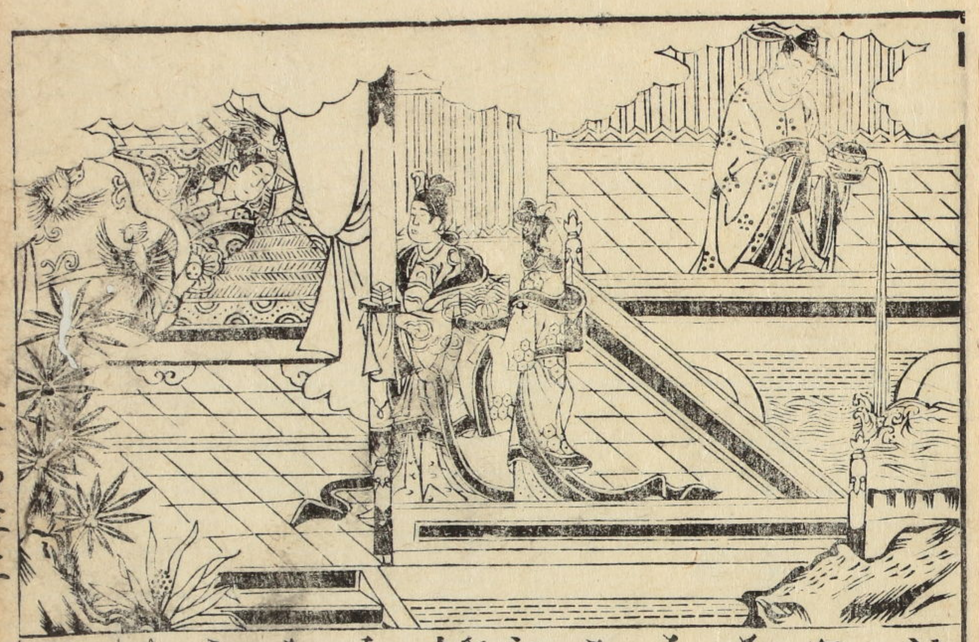
山谷は宋の家の賢人なり。又は太史黄庭堅ともいふ。魯の
郭ともいふなり。傷とは茶こ帯りしこふ文章うなりこふ。
天下の賢人なり。故とは。世ふ多く山谷やうに。酒こうふく茶
ならふなりさて宋の賢人元祐中ふ太史に任じて。
富貴栄耀と。ことさうなり。然るに。孝
道いうてあつて。さまはさも孝たつうこある人なり
こいへことをよくを母うはは西とを。ほ
ぬつさうふうつく。母取恵母保溺ものふよそ
を世ふいふ取ひそうう。坪毒あうく。取あうん心
いふ。山谷は。母を。母あり。溺谷ク母ふあんん保そ

他人のいつハきを聞とちんやとるりこれ孝勸
ごうてゝくるまるゝ。そのたゝれて夜さハ。みゝをあ
たゝめ。あたゝ寒く。父ふさこ先。暑ハ扇ゝうちうると礼記ハ
ものうこれとく。朝夕のゆゝ。何事をもとむくる色。能中
今ハ仮願とあゝひのつる。これとをつゝうて。自孝
以とを。味きるゝ。暑ハ扇まつぶくふ孝勸ハあり
ゆしゝ。ひ侍ゝ家更ハみんゝゝ

○詩曰

貴孝聞天下　平生感百親
親自嚐湯藥　ふ用蜂蠅人

語れし給ハ。孝勸ごとは。山谷ハ太史ハ家ゝのゝり
て。寒き夜孝勸ハ。ゝてゝ。ゝゝゝゝ。ゝるまゝ。ゝゝゝ
孝勸ゝゝとゝふ。ハこゝを父母ハゝゝゝゝゝ。



手ふをいく。いゝゝく孝
なる故ふ。侍ゝをつゝゝもゝ
ゝる。ゝ射ふ下ハれたゝひ。か
ゝゝつゝゝと。ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ。山谷ゝゝゝゝ。つゝ
ゝゝゝ。蜂ハゝゝ。蜂ハ
ハれゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

鹿乳奉親

剡子

剡子ハ蜀ノ人ニシテ父母ニ孝アツキヿヲ世ニ聞ヘタリ。ソノ父母ニ老ヒテ目ヲ患ヒ久シクヲサマラズ。剡子ハ日ニ鹿ノ乳ヲ取テ父母ニ奉ル。ソノ父母ハ目ヲ患ヒテ

詩曰

新老皇鹿乳
身掛褐毛裘
若不言語話
山中幸無人

褐はこゝろの義なり。褐もこゝは。褐と毛ごろもとこゝのものをく。鹿は皮を。身に掛こゝろをいふ。身は鹿のこゝろ。言語はかたらひ。山中は人なしの境をいふ。

賣身葬父

董永

董永は。千乘郡の人なり。母うしなひて。母を葬りて。後よそれ貧をとろうく。父をやしなへり。ためかゝ。やとゝ。それ貧をとろうく。父をやしなへり。ある日かのそゝて。とれ田野かの。小車を作りて。父をのせて。田に行かとり。樹のもとを。紀く。耕作をなりそれ。父死ぬ。ぬかいたりて。ほゝむるへき。これ。ぬかゝ。家人。ぬかゝ。錢十數文かりて。父を葬まつり。そ。附かいく。此錢三年に中かゝ。ぬかゝ。その。ゝ。ゝ。ぬかゝ。奴の。人。こゝ。ゝ。ゝ。ぬかゝ。ぬかゝ。錢とん。ゝ。ゝ。ほゝむるとをとり。ぬかして。ぬかゝ。三文をとる。ぬかゝこと。錢とゝ。ぬかゝ。ぬかゝ。ぬかゝ。ぬかゝ。ぬかゝ。ぬかゝ。ぬかゝた

兄ふ富人はごとうふ行めうふ軍遠ふ[illegible]く一樹は下は
やどりとおもう。たちまちふ一女来きて言葉美麗なり。童
永うかう立ちうく。問ていはく。汝は何人。姓名をばいく
申ぞと問うに答へば永う云。氣姓は葛名は永という
なりと。又問妻ありや。妻なしやと。永いはく。妻いまこの
らごと女乃いはく。妾天女の身。上は父母なく下は兄弟な
く。いまこの人ふを婿とせん。幸なる郎は永と。夫婦となん
いふ。永いはく。永今人は奴婢となりて分を容ふこと能
はず。何ぞ妻をめとらんやといふ。女いはく。夫婦とは
ふ。相おもへる。何ぞ妻なこと。なんぞ夫婦とせ
ぬ。それより二人つれだって家帰りて。主人に
ゆ。主人。董永二人を見て問て云。此女は何人ぞ。永云

そは妻つまなりと。主人はいはく。此女はいづくの
人やと。女はいはく。永は絹をもって絹をのうこと。
主人はいはく。汝たゞ絹を三百疋とり返えんと
望る夫婦はなにをゆえといふ。それ財は妻子
とて。とり返ふいまこと十日をたつうう。三百疋は絹を
とりあつく。主人うは。何ぞ汝。主人ありやもとて。そは真人な
わんといふ。夫婦はとはゆるして出ぬ。妻はゆるす
はとはゆるして。董永ふ四疋ぬ。一樹の
ふとして。妻董永ふ。ろくいはく。永はそは汝の妻ふ
何ぞ。いまこの天女なり。此分はいなりく。帰りなるも
と。天帝は織女を分てあり。永をとうとく絹をとる
分て。此分は貧賤と。はくはんをうう。今はそふ人ふ

ありといふく。者それ天を志の孔て云ぬるおそれやて女しう
ひふさくるこをん之そり前漢書述異記より尺てたり

○董父貸兄　仙姫陌上遊

識縁償債主　き感動天神

詩れこるも一れ句ん。大意ありゆく錢十貫文とかりて。
父とほうしりぬ添事とあり。三れ句ん。中略みて。一
女ふ子のみく夫婦とありしまをつよるり。三れ句ん債の
意ありく入く。緣三百疋とをとりく。主人りつりく。ふ十
貫文れあこひとぼくれひかしみ添事を化きりぼ
れ句は天女れ下りきる。孝りれあつさ事。天帝みと感
きるるをとあくくきり。貸ん。かるこ謝を孔兄ん錢れ貫ふ
ありく。意兄ことを孔方ことを云ありり。仙姫ゆて女れるりり。陌上と

いらまくれ上とよのまをて
刈天女りあふくるとこ
ろをつよるる。債たをひ
めとよまをりあり償と
は錢十貫文をひ銭を
緣をとりてくきりを
つよるり。感動て神をは
天帝義女をくぐして。
あとるり。緣をとりて兄
るりつとつよるり

孟宗

孟宗字恒子也孟宗母又好筍孟宗ときいつかの人なり
ときおしむ父うとくれこそうごとうなりとこと
ありくもろこしかひやうの西晉の時ふ郎中といふ官
ふ位をうけて官をうけ筍を嘗これをうこと
うくをくとこの人くあるあるいはあるいはあるいは病
うくうくを疾なるぐしさくをはるうを筍をあつ
とをとくくうをとのそをうををををて孔天地
ををををを

今朝風とかすかに風ふく吉
ち東風。ふく南風。秋は西
風。冬は北風なり。蕭蕭
とは。寒涼なるこゝろとえて。
さむき事なり。行路の行ふ
ちつなるあとゝなりさゝ
まなり。寒しゝ。冬節はそ
ぞきふかゝざるとも。そ
ぞ孝小感して。冬節
と特して。寒ふれんと。平
あふるゝ。ゆるとゝんい
なり

小孝求鯉

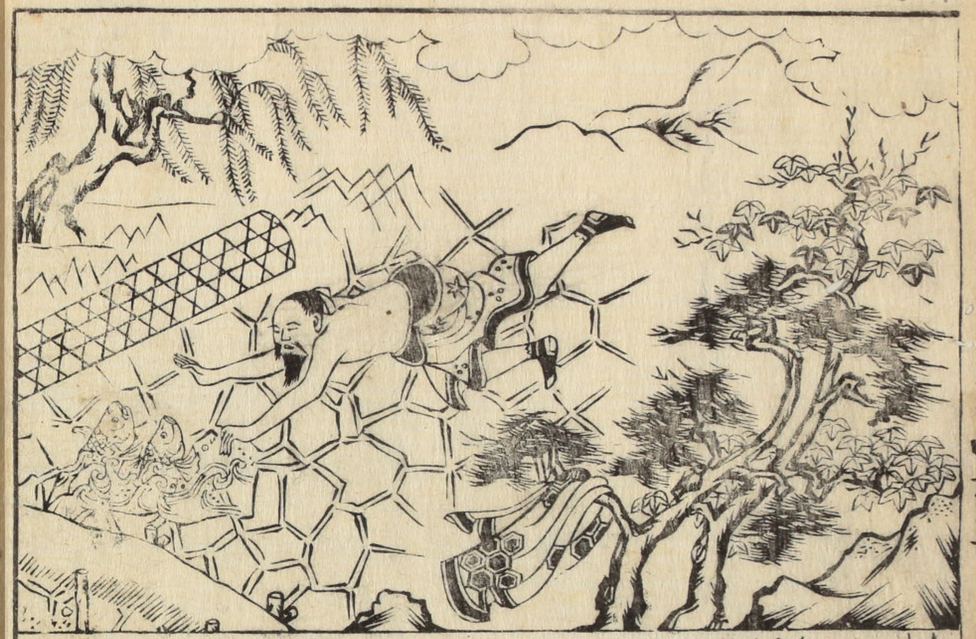
王祥字子。休徵。琅琊臨沂人。早喪母。
あつきなり。くるしく生母をこうるひ。はなり。後母朱氏。小祥
こゝろ。朱氏。中性。たゝしく。あまをなく。ことふ事祥よとひ
て。たゝ情なり。あまをつくこゝろ。ゝ孝なる者と。父はゝ
て。はゝく。後言をあるなり。そしりて。父なりふゝて。
半蓋なんとはきこゝる。紀とはゝ。夕掃除。ゝをて。置
なり。紀とゝ。孝なる。乃ん。完なる。孝。謹。てゝやまし
ゝ。ゝて。よく父母ふ。ゝこひつゝ。父母病ゝ
はゝこゝはゝふ。御。て。重病。節。ゝ。孝。寢ぬ
御。ゝ。ゝ。菜。ゝ。ゝ。ゝ

もゝさこれ笑ふ。時ふみ天瀧半ゐてさひ。ゐこゐりて。
なんくさきれゐ。生奥とのそめり。主孫をめとゐ。
ゐくひゐ。ゐて。初とぬぐて。海れ上ふゐして生奥とも
とめんまとゐげきゐ。月れゐたまゐて。海と主て。
たらまちゐ。鱶魚ニゐとゐりゐ。ゐゐりて。ゐゐひ粘ゐて海
毋ふねくゐり。又徳毋雀乃あゐゐとれとれぞめり。孤自由ふ
ねくゐれまとゐけきゐゐゐりめゐふ。のとゐく雀すた
ゐ孤ゐゐく。奥れ中ふ入ぬゐふと蓋人ゐく。たゐも
孝惑れゐたとゐなゐとく。鄭徒きんとゐまゐ
色。又園生ゐ。素れ木ゐゐ。実とむすひく。わさやか
ゐり。徳毋主祥ゐゐて。ゐを家ゐ。ひゐり。風毋ゐ
たびとふ。素れ木ふ抱ゐきて。蔵ゐまゐれとゐく。

おぞくゐるとさくゐゐ。海れ求ふ。ゐこ主ゐ。時毋
とたゐまゐく。庵山ゐれ。ゐて。かゐもとゐ主三十ゐ
ゐり。六十寒れ時。教家ふ主ゐて。孤ゐゐて。大孤君
毋ふのゐり。又大保とゐゐく。言官保ふゐゐゐり。
ゐ巻ゐれ感ゐるとゐゐり青書列伝ふゐゐり

○詩巾　徳毋人間ゐ　主祥天下ゐ
　　至今ゐれの上　一片冰壺

海れ意ゐ。如乃二句ゐ。全対ゐゐて。対句とれ意ゐり。
いゐゐる。朱氏ゐやゐなる。つ主ゐるとさとれとれ人名れゐよ
ゐとゐとれゐる。又主孫ゐやゐなる。巻ゐりなる人ゐ。ゐゐ
ふれゐゐ。ゐいふゐ海ゐり。三巻れ命は。ゐつ玩海れ上
ふ部ゐゐるとゐふ。模ゐれ。カゐ。ゐちと刻ゐて。ひゐ主祥



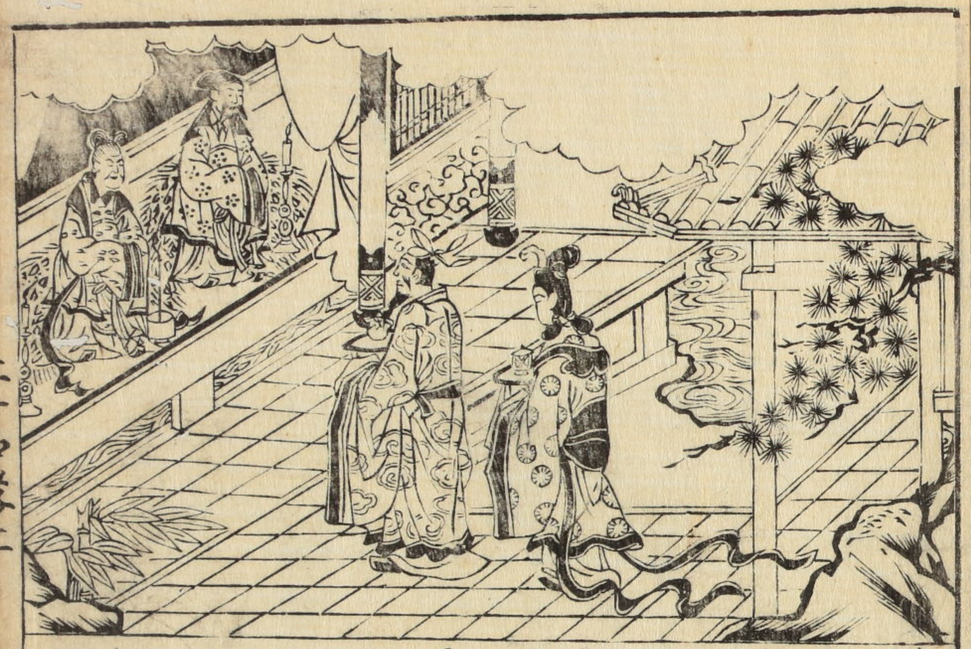
れ代るこころよ。海内今ういうて。そのものは。それ模。なれ上ふありこゝんいと。不思議なりし。まを
ゝ。そうゝふよ。それ
代まくゝと。巻行れふう歳
まと。孤人ふちゝ。たま
ゝん。たゝんなるゝし

丁蘭は。河内の人なり。父母を早くうしなひ。母ふとゝれたりよりて。孤苦伶仃のこゝろ。淵ごひありきて。ゝるしめる事。かきりなし。つねゝ木をもつて父母の像をたゝ。海ようとおもひ。さまは。父母とのゝくゝ。懐抱乳哺の恩あり。今ゝ厚恩を。報ぜんとおもふ。父母ゝんだらて。世を去りゝ。ようとして木をさゝゝて。父母の像を作りゝ。そを書上り。高置ゝて。朝暮ふ。つゝふまつる事。いけるがゝ。ことゝ。ゝ。朝丁蘭の書。たゝふまとゝ。母像の指と。針をゝんさし。丈夫を。ふそれ母と灼ゝり。灼ゝり指ゝゝ。血ゝゝ。面ふ

癒ると生もり。氣をとんくとろうさあるこころぶ。二日と経て。書う乳乃髪たちまちぬけなり。刈て薬。書うたるこころぶ。書ふ河ぶ。書う云あたくふもと。
たるこざるるまと。奇て。書ふ河ぶ。書う云あたくふもと。
う。拔小針さし。毒を物なんうと。薬大ぶ。ろくさ。書をして。
きるとをとむうひくさしめんこえよ。母は木像をたる道。母
て。書をして。三度のあくこぶ。云ひうまぶ。生る時のと
うて。徒来は旅人よ。凡を。笑て。ぶ。を。ぶ。
ひるうぶ。さく三度す。義ぬるこ。ぶ。釈たちまちぶ。母は木
像。だをたをくるとのぶ。ぶ。とはつくあぶ。
ぬとしくう孝子伝ぶ凡くくう

○詩曰

刻木為父母　形容如二生存一
孝子伝子儀　名高至二千載一



箱のこ。ぶ。形容とは。
ふくうとよまをて。二釈
は木像はまをとふくう。
日は。二六時中ぶ。木像
と。老上よ。あ。をして。ぶ。を
ふくう。お姪とは。姪あい
こ和訓とう。徳左像。姪を
従姑こなりて。姑ふくう
ふとはとふ。今のふ。
あくう。釈悼とは。釈と
ふまくう

聞雷泣墓

王宸

王宸字は偉元にして。王儀が。湯陰の人なり。いとけなくして父母に孝ありたり。父は王儀。親は張氏。軍司馬昭の。学問能なり。父は王儀。親は張氏。軍司馬昭の。父は王儀。親は張氏。軍司馬昭の。

父母に孝ありたり。父は王儀。親は張氏。軍司馬昭の。

つねに父母に孝ありたり。父は王儀。親は張氏。軍司馬昭の。

たり。ひざまづきて。礼を尽くす。父母墓をとりて。

墓をつくりて。柏樹を植えおきて。朝夕墓に泣くこと。

怠りなかりけり。柏樹つねに枯れたりとぞ。又母廟の前。

に。雷鳴とどろくとき。母の墓に泣くこと。

とどまりなかりけり。風雨雷霆の時。

○雷泣

孝母悔聞雷　氷綱有孝壇

行書時一震　到墓遠知回

雷鳴とどろくとき。母の墓に泣くこと。

とどまりなかりけり。風雨雷霆の時。

りて。王宸こそ。まりあり作。かなしき。とどまりそれだ

雨よりまゐれごまりさもとり。雲もゆふ。雷あり

るたびとりとこと小学孝求名りゆう

○雷泣

孝母悔聞雷　氷綱有孝壇

行書時一震　到墓遠知回

雷鳴とどろくとき。母の墓に泣くこと。

とどまりなかりけり。風雨雷霆の時。

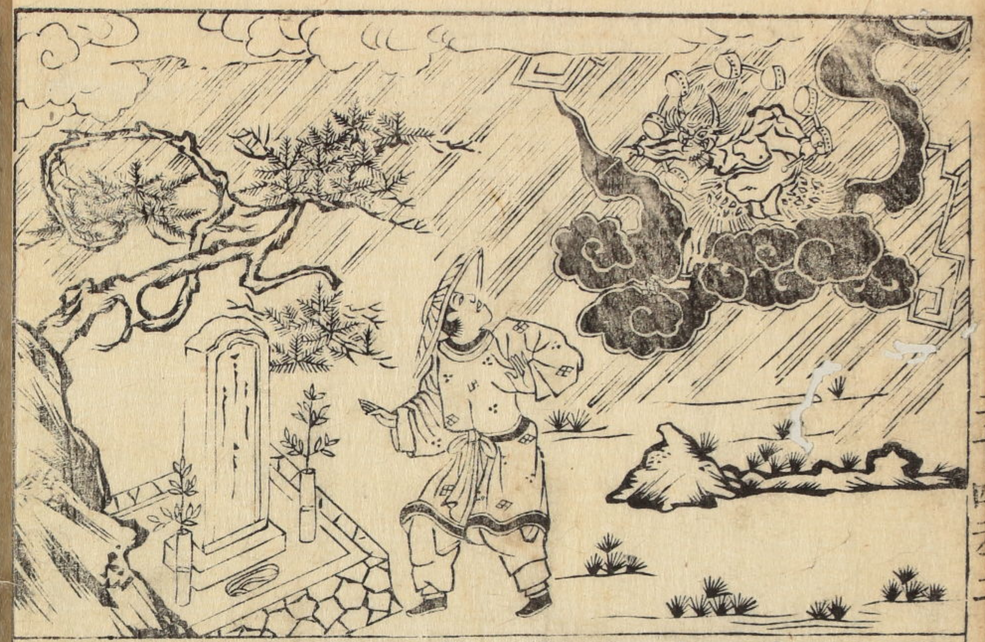
山林にある墓をとりよりて。

りゆう。雷鳴とどろくとき。母の墓に泣くこと。

人なり。永知中よ。邪と問く。ひとりとぶ。日ひとり一人

遊れはとりふ。小屋あり。そこに一女あり。いとおく。何者

遊て日をそ小ふ。ここふ。何者ぞ小宿

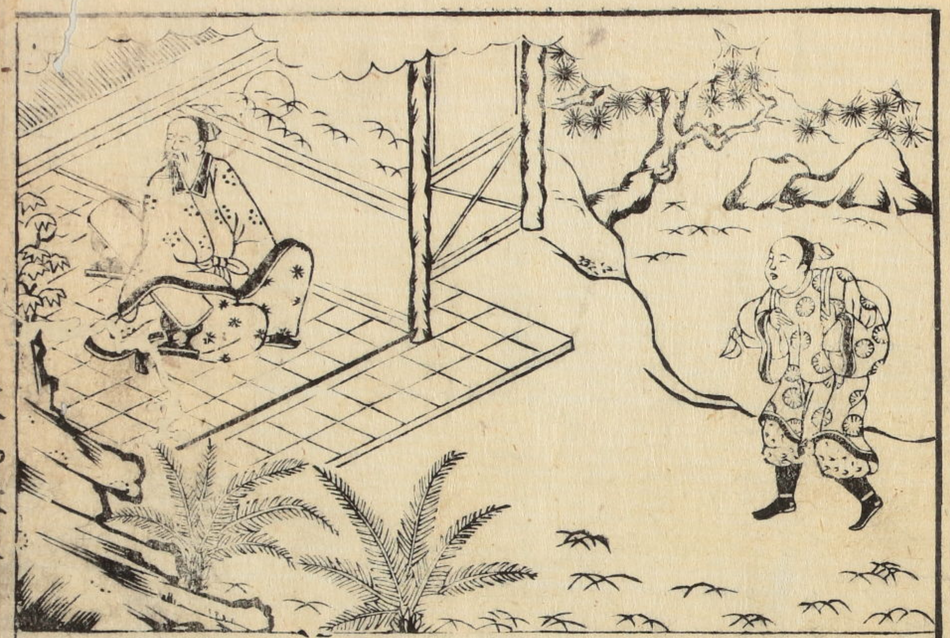


なり。和をして小一文字初秋とも
つ。外に一少児あり。何の書こゝ
なり。別の書をやうして東
とをさしむるゝ。像に面ふ
つ雷電をさして雷がくこと
こゝ様をみるに。一代の部紀
墓のこゝろなり。孝文類
聚に曰ふ。搜神記を引て
他郡をおもう。そよりの
書を雷乃夫人とをるみ
行

為就員来

仲世宇々子遊とゝふ。周代時代の人なり。孔子門よりたら
かゝ。しかもそこに遊ゞして。あさ夕をたてゝ。
蔡はたゞひ。豆は蔡ゝんゞと。
まゝ帰り。おうこゝゝ
なる人なりゝ語ゝて。
うゝ。孔魚遊ゞ
ゝ。ゝ
ゝ。ゝ
ゝ。ゝ
ゝ。ゝ
ゝ。ゝ
ゝ。ゝ

子路



ことゝ。かゝりこはゝとゝひくゝ。父母をやしなふゝり。柏
親死しあひて。はゝりゝ。あれくゝ。楚雲ふりて。こゝ方こゝ
さくゝ。車馬も多く。米も荒ゝこちらこゝゝ。衣をん。裃を
はゝて。ゝ。食事ゝ。他ゝまゝくゝるゝり。これ所ふ。文子路子
ゞきていくゝあゞやれとれとらひ。親れ。ふ。米を百
里の外ふ。負ふをんとこゝと。今ゝゝゝるくゝにこゝんゝゝり。孔子
はゝをのゝこゝゝ。子路ゝ。親ゝゝ。ゝきは。かゝとはゝゝて
つゝ。死をゝ所は。ゝふゝるゝ。ゝひとつくゝをゝるゝとれゝりこ
ゝ孔子ゝ流ゝりんくゝゝゝり

○猶曰　負米仕甘旨と　寧報百里之と
乎栄親已没　悲哉鳥鳥助労と

猶のこゝろゝ。子路ゝ。陳ゝ。歳時ゝ。百里れ遠ゝ。ゝり

こゝ。米を負ふこゝびて。親
ゝ米れ。井前と。ゝのゝゝ
ゝり。親死ゝ。ゝあひて。
負れ。ゝ。ゝふゝゝゝ。
さゝゝく。ゝのゝを自ゝるゝ
ふ。親をゝゝ。死ゝ。
世ふ。ゝゝゝ。ゝ。
ゝげゝゝ。四のゝく苦労
して。父母ふゝたゝと
ゝゝと。ゝゝゝ。い
ゝゝゝ

給孤独記

長溪は蒙求字々君伸こゝ。めでたき人なり。父ふを
なもてくこなりごゝろの。十二歳にして。き母と指して。
こゝ付て。王莽こゝ。ふ白はありく。溪は代とうぐひこゝん
こ帝なりごゝは。ふ。ふ大ふぐこもて。人多く饗応を
こ。こうして。和屑は織人。こうして。人をこうして。
らふて。俄僅かに。蒙は老母を。屋一ゐんこゝ。仏
をたをんこすりぬたなりの。だ田畑に。ゆく。極の炭
こ。こうひあつめて。仏はたをけこ。するなり。こ極の炭
こ。こうふりぬ。ふ。こうをはこ。こ。こうく熟して。
黒色なるこは。一のうこはふ盛。いまこ熟ぶして。和
こなるこは。又一乃うこ。こうこはふいりこ。こうこ和屑は織人

こを乃こく。あ中こ。ふて。いこく。何ぞふ。二こふ。こうく
ぞ中こ。蒙は。いこく。ふ老母あり。熟なるこは母こたく
ふ。こうて。いまこ熟をして。和ごは。こうこ。こらふ。こうこ
ふ。こ。ふ。いたつこふ。盗賊をるこはなりこ。こ。蒙は
は。こ。こ。ふ。和ふ。ふ。こうこ。あこれこを。ふ。
和三年こ。半は閑ごこを。浮こうて。ふ老母ふ。こ
ふ。こは。ふは。盗賊。こ。こは。孝子あり。ふ。ふ。こ
こは。こ。こ。こ。盗人。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
いたりこ。こ。せふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
ふ。こ。ふ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。
こ。ふ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。こ。

たゞ櫂ういたさけび呼くてふよゝ地ふ
ゆゑとのがれさんとたまくれこゝろ紀ぬまは。こゝたら
まちふごびこゝてとうりれ亂ようつりて火災の難
とれがまてこゝろり。そもこゝろ。孝子れあつさ。いこ
をこゝろりこゝろんいつて。孝子傳ゝひ求氣ゝる小人へ
なりこゝ

○詩曰　黒穂を萱闈　嗜飢濕陽花
赤眉を茅簷　生来路死陽

詩れこゝ。を萱闈こゝは。親たくまつることゝの。
萱闈軍ん母れるゝ。いく。樣の笑を母ふたくまつるこゝ
ゝり。さく母と萱こゝつる。世ふ萱草こゝよ萱のまゝ。
詩曰。こゝれこゝ。こゝこゝと。女人ふ

佩ゝれんをとゝまく。うむこゝり。そこゝよりまく。萱草
と。母れ黒穂こゝ。ゝり。黒こゝは。ふつこ字ゝ。てだそ
母れ赤ゝ。れ母ゝこゝ。赤眉こゝは。ぬを人れまゝ
なり。それゝ。ふ。漢れ代ふ。五莽こゝつもれ。莽長。を
こゝて。漢をかゝがさんこゝ。ふ。西大ふこゝうもぬこれ
ふ。処ふゝふぬを人多。れふいつを。ぬを人たゝまゝ。凡俗
ゝて。樊黒ふこゝつとのゝ。ぬを人ゝはそれ眉ゝ意腸や
樂ゝんこれ。わゝ多たゞひゝとん眉ふさこゝく。そゝぬす人。を
ん條人たゝまゝと。ゝこゝ。ゝり。それゝ。ゝ。赤眉をぬん
人れんこゝりこゝ。孝ゝ。ゝは。又母ゝこゝくつゝ人ゝこゝふ
と。孝ゝれ二こゝいんゝり。そふ。ゝく。四句ゝのこゝつまゝあり。
一ゝは孝ゝこゝ。ゝ。ゝ。

なひく孝りのあるこゝろ人ことに
釈しあやまるまちをんご者
ひのんか諫伝をさる笠れた
くひるり。二母は。ひめして孝
かひのんは。いく父母病付。臥
このこあるく。毒紀とのそめ
ほかあたるなるのこと。三
かは孝りめして。陸死を
ほるり。四かは。孝かひのんは
ひのんに今は井三れ名
のこころるり

行倫性母

仮漉れ江草は。字を次義こゝか。父れ西陰漉れ人なり。
ゆして。父りこるれひこり母こおめり。な孝りし
て。つこるます。夫人りうまり。母付をれ四こゝ色
て。孤人をこさこゝろ陸し。これ九かに江草。母ををつく。
地西りのゞもりしかに母ヒをこゝをかはゆゝがるり。
こるり。さゝく地四かをつく。粮夕れくこんを紀をゞれな
志をこりこるく。山ゝ人くゝ。草をひこひ。沢をかるりて
し。粮井をんゞをつゝて。母をやるり。はこゝ孤ヒぬ人
母りて。細くかぬ人かあるり。母付ぬを人江草をつ
をさゝんこするか。草。沸法して。いくく。系かを九母ひのり。今系を
つをゝは。老母いんゞを。そこ人ゝるます。ゝ孤ゞ。ゝくく

江草

こ。ゐぐさ。ちゝげ。ぬけ人。れてこゝろを。学ぶ。げく。ゆゑ
てぶり。そもよう。下邳といふ。こゝ。ゐて。ぐこてゝ。こだ
よひ。ありさて。そぐこゝ。もあ。ゐんぐ。ゐ。人れた。ふやと。
て。こゝ。日れ。ゐ。とうく。ゐ。とやゝ。ゐ。それ。ゐ。ちまゝ
し。れて。遠。戌れ。ま。ゐ。ゐ。とこゝ。ゐ。れ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
やゝ。ゐ。ひ。ぬ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
て。江。孝。こ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

○詩曰

負母和尼　危難　完璧賊犯須
名告俱獲免　偏力以性親

ゐれ。こ。ゐた。れ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

搔虎孝記

楊香

楊香は。晉の代の人なり。その性いとけなく。孝ありとつく。父十四歳なりしが。父田畑に行。父ことゝもに畑をかる。その時ふたけの虎あらわれ。父をとらんとす。楊香虎を乃くく。大ごえをあげ。虎ふむこひくふをとんとうるよ。すでに。何とか虎を持ごもるべきたてをもつたく父あるまれとをもつく。家をはなれ。虎ありく。虎ありくはまんまをはなれとうこえ。別虎あり。向ひて。虎は頭を搔て。ゆるすべしとて。何まよ系父をはなつ。さらんとするそこいひうをとん。虎と兄妹をとゝ。ひさまへさるたけ孝義生たりこゝをとゝ。虎となる孝の。肝ふ飲べけつまや。乳をとうあるうもとで。ありそさ。ありぬとあんつて。虎を。

物の。乳を。父をとゝ。まぬうをめるまを。楊香は孝感乃いたんこゝろなりこゝ。世人ととくく。いひあるこゝろ。書列伯ありんくたり

○詩曰

源山逢白鹿　勞力拯狂風
父子作空舟　孤離倦日の中

詩はこゝ源の。楊香は父。郷もてる田ん山中ふあり。俗山深山こゝふ。ありの。虎はまあるを。勞力こゝは。用力ご字讀して。楊香勢一盛よ。力をあり用て。虎は乳をとさゆるまをとゝ。ありの。服風こゝは。虎は口乃まをの。虎をつるふ。孤猛の勢をとゝ。ゝらふとはの。小服よつて。

と。ゑふ。ゑ。といふ。ゑもよ。ゑさ
ほを。ゑゑさといふ。神。ゑ。ゑよ
かう。ゑゑん。ゑけまりかう
ことといふ。虎口の害をのが
うきたるといふ。僧ゑ。ゑ。僧
はらふとよまめてく。虎は
はけまりといふ。今虎口は難
とまぬうもこめりると。僧ゑ。ゑ
を。ゑ。ゑ。といふ。僧ゑ。ゑまぬ
れ。難はんうりことよまぬ
もるうり

朱寿昌

にん字を廣敬こいふ。楊列を長孫れ人今うり妻昌
ん。廣列れたを守たり。ゑれうりをいく刘氏をめこ
ゑ。ゑ。ゑ。

とゝろふ魚といふ。もよ魚さ
所を。ゝゝゝこいふ神ゝゝ
かう。ゝゝゝ
ことといふ。虎口の害をよ
うたるといふ。俗口こゝ俗
はらふとよまのこゝ。虎口
はまをといふ。今虎口
とゝまぬうをぬるゝ。俗口
を拔難をこいふ。
れ。難はんなることよま
もるなり

朱寿昌

朱寿昌字ゝ康叔こいふ。楊州ゝ長嫁ゝ人なり。寿昌
乃父娶ゝ。離別ゝ去守たり。嫁ゝをいく刘氏とめこゝ
ゝ。こゝゝ一男子とうめり。ゝゝゝめと朱寿昌といふ。七歳な
り。時刘氏及朱寿昌をつれてゝゝゝぬるゝ。正室の寿
あり。刘氏をわゝゝて。ゝゝ内えと入るなり。ゝふより
て刘氏とは。他ゝはうして。嫁ゝ先ゝまゝ。
寿昌ゝ母刘氏ゝゝれく。ゝゝゝ十ゝなりゝ。ゝて寿
昌ゝ。家ゝゝゝ家ゝゝく。邪守ゝ官たりしゝ。ゝふ
ゝゝとうゝて。懸寧年中ゝゝ。ゝゝ。雍州ゝふ入
ゝゝをたゝて。おゝゝゝゝをゝゝゝて。ゝて。ゝよ
いゝまゝゝひゝて。ゝく。ゝゝゝゝ

かくごとくにして。ちゝをたすけ。母をさゝへ。
血をかゝ。涙をうかべ。ひたすらに。一たび母をわ
すれてゆくまこと。天地も神も。感ぜずんばあら
ずとなり。列氏生母ふかく。釈子相ともなひて。ゆくるゆ
くきりなし。こゝにこゝに列氏年七十餘なり。それ遂さるまで。
ふせ屋もわいてころり。廐別れたる寺より。錢四貫こゝろあり。
はまをぬけて。神京より。参内たまはれば。まの居と
もゝ。ゆくて。わしびの那家より。めつらしいかな。
居れば。ゆくりなくてよかりけるこゝろ。小孝子
より長編うんぬん

○詩曰　七歩生離母　冬嶺五十年
一路おもひ向を　赤氣動皇天

祈れば。ゆくりなく。番屋七歩のとき。母劉氏ふとうれく。おゆ
るゆるゆるまで。ゆくまでなる
と。番高こらなり。一路おもひ
向こは。同列那ゆくて。おもひ
劉氏母をゆくるまでと云
なり。動皇天こは。皇天は
神京をいう。錢四貫番屋
の孝なるまを。神ふかく感
ゆるゆるゆるまは。感動
まゆくゆく。又廐別れたる寺よ
りゆくまといふなり。

参商とは、とおくおつぐりて、色さる事ふ。甲乙有変なり。そもそも言る事氏よ二人れ子あり兄を訓倫と云。
才を実流と云ふ。弟を兄弟あり中あり兄を弟あり。望義
兄は兄倫と云。商と云ふ。ごころうふ。うを云て商星と云ふ星
と云ふ。ごとく。光。弟は実流とは。太夏と云ふ。ごこ。ふつ
くして。参星と云ふ星を守し先ふ。ふり二星とよく。
一方ふ。おく。おの色さるなり。そもそも人知ずして一処ふ。つ
まり参星を指さるは。先参星商星と云ふ星ふ。ごと
こうなり。たゆおんくこう

正徳五　龍集乙未五月吉旦

二十四孝図

於母中蹴のいにしへ　狭牧と庭にわしるとて不孝あるとひ
にのこたらふ。もて。浣ふ。自は母ふ。ぐるとなれば。ふんば。ふを
消ふけく。学ふにむこうめるに。他の國ふ。周游して。ふり
うけ。ふ。ふにふかわるうして。帰ふ。ふ。道と。ふ。ふ。び
て。ふに父母ふ。帰ふ。ふ。ふ。

くれどこころばせを離ずおのの一つゆゑもかゝんと文母
異を注に直爭し。南こ注に文注の異を注に報
吹〳〵て世にたれるの今亭影八旬に及んで二十は孝
に註爭し。又こゝにかゝる〳〵てだとりんゞ〳〵二十は
人の新賢人の巻ちかと今ふかゝびて新
增二十巻といふ唯是予の庶幾するところなり

雒下隱士　貞阿子

正德五　龍集乙未　仲春　吉旦

大坂心斎橋南詰

書林　丹波屋市兵衛